



会員からスーツや靴を受け取る本年度の卒園生(右)

養護施設から進学支援

伊勢崎ロータリー 給付型奨学金を新設

児童養護支援施設を卒園後に進学していく若者たちを支援しようと、伊勢崎ロータリークラブ(関徹也会長)は返済不要の給付型奨学金「未来支援金」を新設した。県内施設を巣立つ18

歳にスーツ一式を寄贈する活動を2014年度から続けるが、進学を希望する若者の増加傾向を受け、「金銭的理由で学びを諦めてほしくない」と新たな応援の形を整えた。

未来支援金は毎月2万円を2年間給付する。来春の進学者から支給を開始する予定で初年度は2人を見込み、資金はクラブの会員が負担する。今後は賛同者を増やし、対象を拡大したい意向だ。

児童養護施設は県内に8カ所ある。伊勢崎市内にはないが、エリアに関係なく自立へのはなむけをしようとして、18歳で施設を離れる全員にスーツや靴を贈る取り組みを14年度から続けている。本年度は18人にプレゼントした。

県児童養護施設連絡協議会によると、自立後の進路

選択は進学が増加。全高校生との比較では依然として進学率は低い。県内で本年度に卒園する18人のうち7人が進学を予定する。ただ全国では、進学したものの資金が足りずに退学を余儀なくされるケースもあるといい、同協議会は「不安や迷いを抱える巣立ちの際に、手を差し伸べてもらえ」と新たな奨学金制度を歓迎する。

17日に伊勢崎市内の結婚式場で開かれた施設卒園生を送る会で、クラブの会員が卒園生にスーツや靴を手渡した。寄贈後には卒園生と会員らが円卓を囲んで昼食を楽しみ、各テーブルからは目を輝かせて今後の進路について話す卒園生の声があふれた。

関会長は「見守っている人がいることを感じてもらえたらうれしい」と話している。

(北沢彩)